



Kitakyushu
Koga
Hospital
magazine

北九州古賀病院 機関誌 vol. 2

2022

09

目に映えるすべてが輝くような
明るい未来になりますように



北九州病院は働きやすい職場
環境づくりに取り組んでいます

ごあいさつ	P2
医局紹介・新人医師紹介・非常勤医師紹介	P4
新型コロナウイルス感染症クラスター報告	P7
嚥下造影入院・嚥下造影検査	P8
回復期リハビリテーション	P10
統計・実績	P12
研修・沿革	P14
News & Topics・編集後記	裏表紙



院長 橋爪 誠

《病院理念と基本指針》

信頼・協調・貢献

(理念)

私たちは、医療の質の向上に努め、患者さんの人権と意思を尊重し説明と同意に基づく医療を推進します。

(基本方針)

- ① 患者さんの安全を守り、その人らしい自立に向けより良い医療とケアを提供します。
- ② 地域の方々のニーズに応え、皆様に喜ばれる病院を目指します。
- ③ 患者さんを中心としたチーム医療を展開します。
- ④ 日々自己研鑽に努め、明るく働きがいのある職場を作ります。

機関誌名称について

平成18年12月～平成30年3月31日まで、地域の方に愛されご利用していただいていた当院の通所リハビリテーション「きらめき」に由来します。「一人ひとりが輝くような場所にしたい」という思いから命名しました。新型コロナウイルス感染の終息と、この先の明るい未来を願う意味を込めて、創刊に際し、機関誌名称として採用されました。

「新しい生活様式」

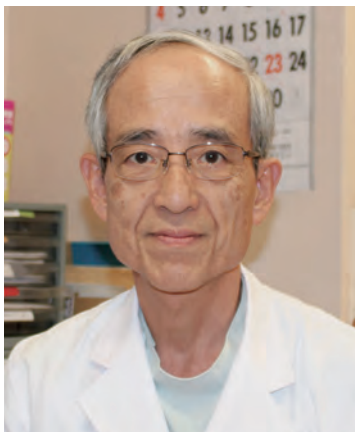
新型コロナウイルス感染症は、パンデミック発生から3年経過した今もお終息せず、すでに第7波に突入し4回目ワクチン接種が開始されました。私たちは、コロナとともに生きていくための新しい生活様式に慣れてきました。「3密」を避け、手洗いや、手指消毒、マスクの着用、ソーシャルディスタンスの確保、黙食のほか、テレワークやオンライン会議など新しい働き方のスタイルが当たり前の世の中となりました。コロナのお陰で、わが国が海外に比べ出遅れていたデジタルテクノロジー（インフォメーションテクノロジー）の普及が加速され、あらゆる分野で顕著な技術革新、イノベーションが起きようとしています。5Gや人工知能が社会実装され、ビッグデータを基盤とした最新情報を瞬時に、いつでも、どこでも誰でも取得できるようになってきました。

医療や福祉の面では、弱者にもっと目を向け、平均寿命でなく健康寿命の延命に関心が高まっています。国は高齢者の尊厳保持と自立した生活の支援を目指した地域包括ケアシステムの構築を推進しています。今、医療と介護連携の在り方が問われており、当院のような介護医療院を併設する慢性期療養型病院の地域に果たす役割は益々大きくなっています。スタッフ一人ひとりが患者さんに対して最良の医療や介護サービスを提供するためにはどうしたらいいのか、思いを寄せ、皆で一緒に考えることが重要です。どんなに先端技術が進歩しても、人を思う心とその実践力がなければ人を幸せにすることはできません。患者さんだけでなく、ご家族や地域医療機関から信頼され満足していただける医療や介護を届けるために、私たちはスタッフ一丸となって尽力します。皆様には今後とも宜しくご指導ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。



副院長 **木元 康介**

北九州古賀病院に就職して4年が経ち、この2月に思いもかけず副院長に就任いたしました。専門は泌尿器科ですので、これまでも排泄ケア委員会の活動を通じて患者さんの排泄障害の解決や留置カテーテルのトラブル対応に取り組んできました。これからは、それ以上の役割が求められていることを強く自覚しています。橋爪院長と小川副院長の負担を少しでも軽減できるように努力いたします。病院を取り巻く環境は、2年以上続くCOVID-19との闘い、円安による諸物価の高騰など戦後最悪の状態にあります。しかも、いまだトンネルの先の明かりが見えない状態です。職員の皆さんもストレスが溜まっていることと察します。このような状況だからこそ、決して頑張らず、かといって下を向かずに日々の業務を丁寧に行っていきましょう。私自身は、早寝・早起き、五本指シューズでの1日1万歩、昼休みのストレッチ、帰宅後の縄跳びでストレスを解消し、健康を維持して勤務してまいります。



副院長 **小川 芳明**

COVID-19ワクチン接種が進み、各種治療薬も開発され、コロナ禍は新たなStageに入りましたが、いつ頃どのような形で終息するのか予測できません。パンデミックの終息は世界を元に戻すのではなく、全く別の世界を創出することを歴史が教えています。14世紀の黒死病(ペスト)はローマ教会の権威を失墜させ、宗教改革やルネッサンスが勃興しました。コロナ禍も医療を取り巻く環境を、別の姿に変えてしまうかもしれません。今年度の診療報酬改定では、慢性期医療の病院にもCOVID-19のような新興感染症への対応が求められています。これまでの病院運営が、今後も通用するとは限らないのです。ロシアのウクライナ侵攻による世界経済の混乱とも相まって、淘汰される病院も出てくるでしょう。ダーウインの自然選択説が唱える「変わったものだけが生き残る」厳しい環境で、当院が「煌めく」ためには、個々の職員がお互いを理解し協力し合って、地道に地域医療に貢献していくしかないと思います。

医局紹介

1年ぶり2回目の医局便りです。

この1年間は北九州古賀病院にとって激動の1年で、医局スタッフの大きな変動がありました。2021年4月に蜂須賀先生、木村先生が入職され、6月には宮崎副院長が宗像中央病院院長にご栄転になりました。9月には荒木先生、2022年1月には久保田先生、4月には石光先生が入職されました。

悲しい出来事もありました。長年にわたり神経内科診療の中心であった牟田副院長が7月に突然の病に倒れ、帰らぬ人になってしまいました。北九州古賀病院にとっては大きな人材を失い痛恨の極みでした。謹んでご冥福をお祈りいたします。

また、蜂須賀先生が事情により2021年10月に退職されました。

現在スタッフ数は20名で、南棟5階の医局フロアが久しぶりに満室になり活況を呈しています。

診療面では、日本全国の各病院と同じようにCOVID-19感染に振り回された1年でした。たびたびの病棟閉鎖や院内クラスター発生などが起こり、その対策に翻弄されましたが、橋爪院長、河村感染対策委員長を中心に院内一丸となってこれに対処し、何とか乗り切ることができました。看護部門をはじめとするメディカルスタッフや事務部門の皆様の協力に感謝いたします。

当院の病院機能は回復期リハビリや慢性期医療を中心に地域医療の一端を担うことです。総合的診療体制の充実のために、神経内科は福大病院から、整形外科は福岡東医療センターから毎週応援をいただいています。Withコロナの環境の中で、今後も周辺の急性期病院との病連携をとりながら、診療機能の更なる充実に努めるべく医局スタッフ一同が尽力していきますので、よろしくお願いいたします。

(文責：医局長 中村和彦 満開の桜が見事な東3病棟にて)

医師

(院長・副院長以外は50音順です)
(令和4年6月現在)

院長	橋爪 誠
副院長	木元 康介
副院長	小川 芳明
医局長	中村 和彦
	荒木 奈々恵
	生島 正弘
	石光 寿幸
	大重 要人
	大橋 昌夫
	大脇 和男
	河村 正輝
	木村 嘉郎
	久保田 博文
	河野 淳二
	田浦 泰宏
	高田 大陸
	富田 光子
	早川 洋
	山邊 和俊
	吉村 恵



新人医師紹介



久保田 博文

令和4年1月に入職しました久保田博文です。出身地は宮崎県都城市です。18歳時に大学進学を機に島根県出雲市に住み、50歳手前まで生活していましたが、14年前に福岡に引っ越してきました。大学卒業以降は、ずっと外科医をして、福岡へ引っ越してからは、その中でも乳腺外科を専門にやってきました。乳腺外科をやり始めたのは、30歳からで、当時の教授先生から「来月から乳腺外科を専門的にやりなさい」と言われた鶴の一声がきっかけです。父が高校1年時に総胆管癌で死んだのをきっかけに外科医、特に肝胆膵外科を志してきましたが、まさか乳腺外科医になるとは思ってもいませんでした。最初は嫌でしたが、やってみると面白くて、ハマったと言うのが本当です。福岡に引っ越したのは、「乳腺外科だけを専門的にやりたい。その他の領域はしたくない」との思いで、お誘いもあり転勤した次第です。それだけ熱い気持ちで乳腺外科をやってきたのですが、子供は長女・長男・次男の3人ですが、去年は、長女に男子の孫が生まれ、長男も結婚することが決まり、人生の節目かなと思うようになり、きれいさっぱりと外科医を引退し、人生の第二章を始めることにした次第です。内科的知識に乏しいのですが、よろしくお願ひします。



石光 寿幸

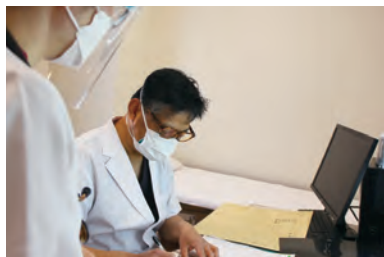
この度4月1日に入職いたしました医師(元外科医)の石光寿幸と申します。専門は消化器外科、乳腺外科、がん化学療法で、38年間福岡赤十字病院、国立小倉病院(当時)、唐津赤十字病院、下関市立市民病院などで診療をしておりました。3月末日をもって定年退官となりこちらでお世話になることとなりました。完全紙カルテはおよそ30年ぶりで戸惑うことばかりであり看護師さんたちや先生方に教えていただきながらやっと指示を出せている状況です。これからもよろしくご指導ください。

当院にきて強く感じたのは病院のケアがすばらしく非常にきれいなこと、いわゆる病院臭がしないことは感激すらおぼえました。また患者様たちもケアやリハビリがいきとどいて幸せそうにしていることです。今までは本当に救急を含む急性期医療に身をやつてきていたので病棟でゆったりと時間が過ぎていく感じはまだ慣れませんが、どこかほっとした感覚を感じています。

さて私事になりますが、約30年前に福岡で家を持ちその1年後に転勤となり、以来通算26年間単身赴任でした。今回やっとマイホームで過ごせることとなりましたが子供たちはすでに結婚して独立してしまい、老夫婦2人だけの生活です。

趣味は何といってもホークスの応援です。自宅がドームに近いので年5-6回は観戦しています。今年の開幕戦も観戦しましたが逆転満塁ホームランは最高でした。勤務のほうは家庭の事情で無理をいまして月曜日から木曜日までの週4日勤務とさせていただきます。ご迷惑をおかけします。微力ながら精一杯頑張りますのでよろしくお願ひいたします。外科的処置が必要な場合などお気軽に声をおかけください。

非常勤医師紹介



整形外科 **中家 一寿**
(福岡東医療センター)

整形外科回診 ～整形外科シームレス連携に関わる取り組みについて～

当院では整形疾患の入院患者さんを対象とした回診を毎週木曜日14時30分より行っています。この回診は、急性期から回復期へのシームレス連携に関わる取り組みとして福岡東医療センターの整形外科の先生方のご協力のもとに行われております。

患者さんからは、福岡東医療センターでお世話になった先生方から引き続き診察を受けることができることに喜びの声も聞かれます。



皮膚科 **吉木 竜太郎**
(医療法人 集会 よしき皮膚科・形成外科)

はじめまして。令和4年4月から皮膚科診療を担当することとなりました「よしき皮膚科・形成外科」院長の吉木竜太郎と申します。平成25年からお隣の福津市で開業させていただき10年目となります。大学勤務時代は主に皮膚悪性腫瘍の治療と皮膚免疫学の基礎研究を行ってまいりました。当時の経験を活かし現在では一般的な皮膚科診療を中心にホクロ、粉瘤などの腫瘍切除、また脱毛、シミの治療などの美容皮膚科診療も行っています。また当院では近年需要が高まっている「介護脱毛」も行っております。

月に1回のみ診察となりますが患者さんの皮膚のトラブルについてお困りのことがあればどうぞお気軽にご相談ください。



脳神経内科 **藤岡 伸助** (福岡大学)

福岡大学脳神経内科医局長の藤岡伸助と申します。2021年10月より、臨時ではございますが、脳神経内科医師として診療をサポートさせていただいております。神経内科疾患はパーキンソン病やアルツハイマー型認知症などの神経変性疾患、脳卒中、てんかん、しびれをきたす末梢神経障害、てんかん、内科疾患に伴う神経症状など多岐にわたり、診療には経験と知識を必要と致します。特にパーキンソン病においては、ちょっとした薬剤調整でその患者さんの予後が大きく変わってまいります。北九州古賀病院では、多くの神経疾患の方がご入院であり、現在コンサルテーションも数多くいただいております。私が月曜日午後、当科の田村重征医師が木曜日午後勤務させていただいております。お困りのことがございましたら、気軽にご相談ください。



眼科 **遠藤 泰宏** (えんどう眼科医院)

古賀市舞の里のえんどう眼科医院院長、遠藤泰宏と申します。

北九州古賀病院様には、以前母が大腿骨頸部骨折後のリハビリで大変お世話になりました。また亡き父も晩年八幡で自身の診療所を閉院後、他の関連病院で勤めさせていただいたこともありました。

そのような縁もあり、月に一度こちらの入院患者さんの眼科診療をお手伝いさせていただいております。

自院と比べるとどうしても可能な診療に限度がありますが、少しでもお役に立てればと思いますので、今後ともよろしく願いいたします。

新型コロナウイルス感染症クラスター報告

《2022年2月クラスターを経験して》

当院の介護医療院、新型コロナウイルス感染症クラスター発生に際し、皆さまには多大なるご心配とご迷惑をおかけいたしました。このたびのクラスター発生と対応策を今後に活かし、引き続き感染予防対策に職員一同全身全霊で尽力してまいります。今後とも何卒よろしく願いいたします。

《クラスター発生状況》

発生状況

- 1/28(金) 東1階病棟(介護医療院)介護職員が発熱呼吸器症状を訴え、近医受診。検査の結果コロナ感染が判明。発症日(28日)は欠勤。直ちに東1療養棟を閉鎖し、ヒアリングで濃厚接触者の有無を調査。濃厚接触者なし。
- 1/30(日) 入所者1名発熱。午後3時すぎ同室者を含め全員の新型コロナPCR検査実施。
- 1/31(月) 1/30の検査結果で、翌日3名の新たな感染者が判明。
- 2/1(火) 症状のある入所者や、同室者、スタッフを含めて濃厚接触者を優先に院内の抗原検査キットやスマートジーン(PCR)にて検査を実施。それ以外の同じフロアの入所者・職員に対しては院外のPCR検査実施。院内PCR検査は1台で1名ずつ、しかも所要時間は約1時間と極めて非効率であった。

経過 最終的に入所者22名、職員10名の合計32名が新型コロナウイルス感染症に感染。職員は2/4以降、入所者は2/9以降、新たな感染発生は認められず、粕屋保健福祉事務所に相談の結果、2/23までは経過観察のため療養棟閉鎖。

転院 SpO₂が低下し、酸素吸入が必要となった2名のみ。
死亡 2/9宗像医師会病院に転院した入所者1名及び当医療院治療中の入所者2名の計3名。

《対応策および転帰について》

入所者22名：点滴治療13名(モノクローナル抗体、ゼビュディ)、内服薬8名(抗ウイルス剤、ラゲブリオ)。必要に応じて発熱者にはステロイドを処方。感染した入所者22名中16名はコロナワクチン2回接種済みであった。

職員10名：内服薬5名(抗ウイルス剤、ラゲブリオ)、未治療5名(本人が希望せず)。検査時8名は無症状であった。

隔離対策 1/31陽性入所者個室管理、2/2ゾーン区画開始。
2/18重症入所者を除きゾーン区画解除、2/24療養棟閉鎖解除。

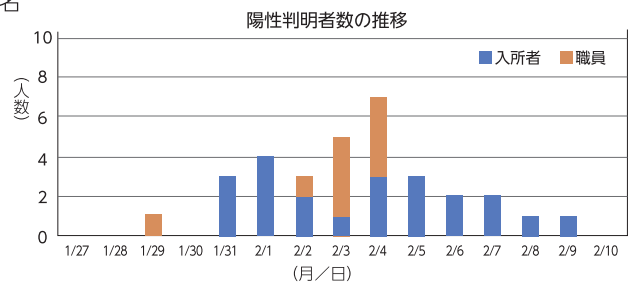
応援体制 看護主任を派遣。介護職員2名とリハビリスタッフ2名を派遣。夜間の看護体制4名へ増員(看護職2名、介護職2名)。

①検査回数 2/1：85名、2/3：84名、2/7：74名、2/10：19名

PCR検査延べ243名、抗原検査延べ51名、総計延べ294名

②粕屋保健福祉事務所との調整

担当部署の企画指導課へ毎日病状調査報告及び訪問による説明等を行った。当院要請によりコロナ抗原キット60キット、フェイスガード500枚を提供いただいた。



《介護医療院クラスター発生の主な要因》

- 1: 介護医療院は高齢者が多く、介護度の高い入所者が多い(3密は守れない)。
- 2: 職員数が少なく、認知症など感染対策が困難な入所者が多い。
- 3: 隔離可能な個室や感染部屋がなくゾーニング困難。
- 4: 検査体制が脆弱で、外注検査は結果判明まで時間を要す。
- 5: 医療逼迫で医療資源が不足し、試薬やキットの入手が困難、抗原検査の精度不足。
- 6: ウイルス要因として、世代時間が短縮(オミクロン株約2日 デルタ株約5日)、感染力が強く、あっという間に広がった。

《今後の対応策》

新型コロナウイルス感染症第7波の流行に向けて

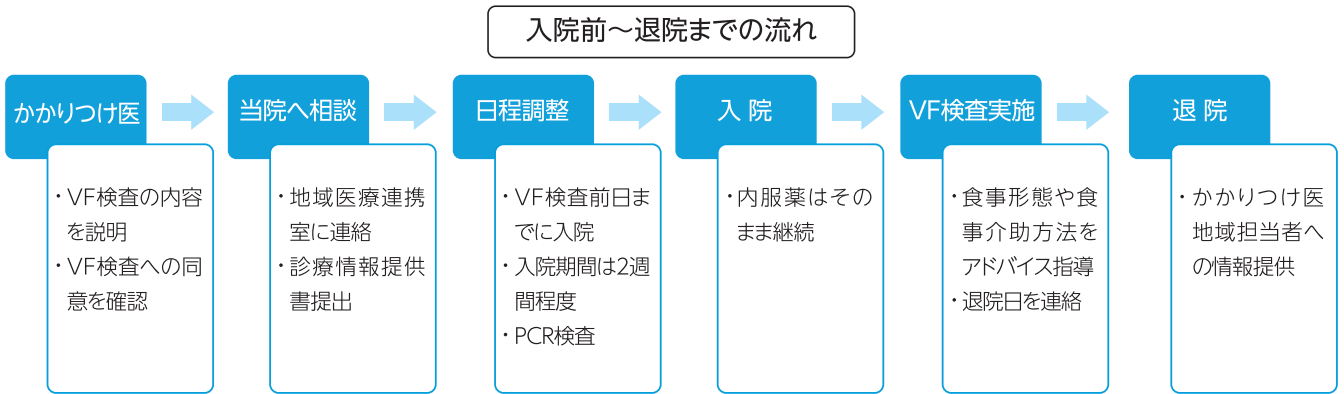
- 1) 報告体制の徹底
- 2) 検査体制の充実
- 3) 感染対策の教育及び研修の徹底

(文責 河村 正輝)

嚥下機能評価の入院について

当院では、嚥下に問題のある患者さんを対象に、入院して食物の通過状態を嚥下造影検査を実施し、安全な食事形態や摂食方法の検討及び指導を行っています。ご希望の方は下記相談窓口へご連絡ください。

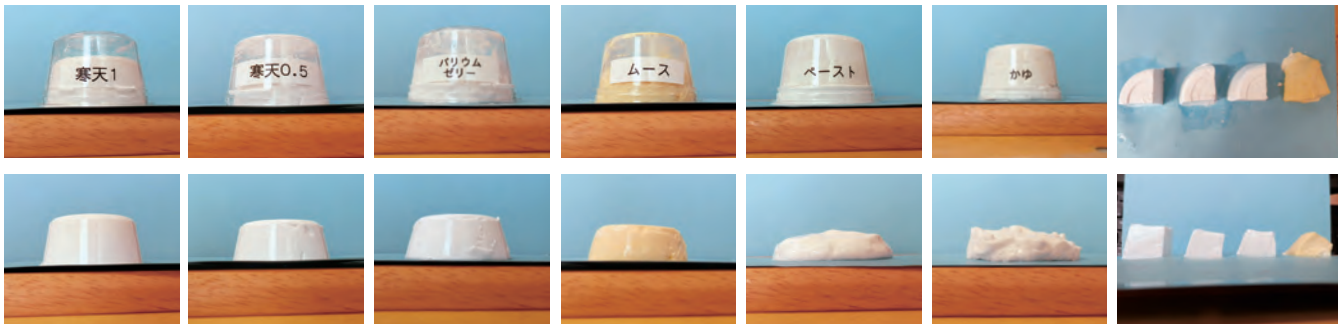
- 対象者**
- ・嚥下機能障害を引き起こす診断名がある方
 - ・造影剤にアレルギーの無い方
 - ・当院の嚥下造影検査説明書に同意いただける方
 - ・慢性の嚥下機能障害の方(急性症状は不可)



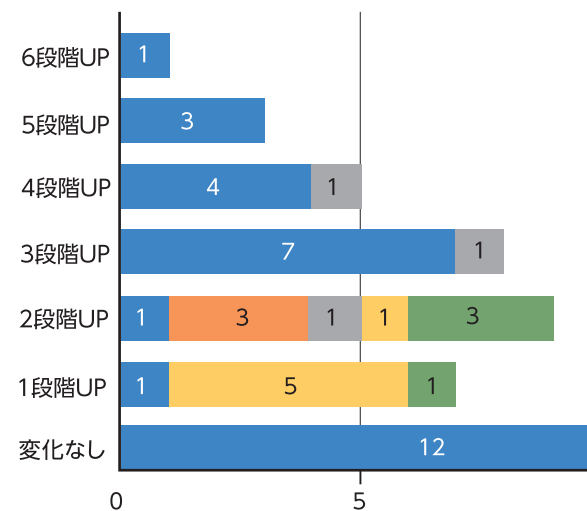
《相談窓口》
北九州古賀病院 地域医療連携室
 電話番号(代表) 092-942-4131 FAX番号 092-940-4029

検査用食事

当院で実際に提供される食形態やとろみ付加の段階に応じて作られた、バリウム入り検査食を使用して検査が行われます。



VF検査前後の食事形態をFOISを用いて比較した結果



FOIS (Functional Oral Intake Scale) 摂食嚥下障害の重症度指標

レベル1	経口摂取なし
レベル2	補助栄養に依存、少量の経口摂取を試みるのみ
レベル3	補助栄養に依存しているが、継続的に食品や飲料を経口摂取している
レベル4	すべての栄養・水分を経口摂取。1種類の食形態のみ
レベル5	すべての栄養・水分を経口摂取。複数の食形態 ただし特別な準備や代償法が必要
レベル6	すべての栄養・水分を経口摂取。複数の食形態 特別な準備は不要だが、特定の食べ物は食べられない
レベル7	正常

嚥下造影検査



九州歯科大学歯学部口腔保健学科
多職種連携推進ユニット教授

藤井 航

嚥下造影検査 (Videofluorograph:VF) を知っていますか？

当院では、摂食嚥下障害の患者さんに対して月2回(原則として火曜日午後)嚥下造影検査(VF)を実施しています。

摂食嚥下障害とは

食べ物や飲み物を口の中に入れ、胃まで送り込む動きのことを“摂食嚥下”と言い、この一連の動作がうまく機能しない状態を“摂食嚥下障害”と言います。病気や加齢などにより、食べ物や飲み物がうまく飲み込めなくなり、咽頭に残留することによる窒息や誤って声帯を越えて気管へ入ってしまう誤嚥をすることで、肺炎などを引き起こすことがあります。

誤嚥性肺炎とは

摂食嚥下機能の低下や、咳をする力が弱くなると、食べ物や口の中の細菌などが誤って気管に入りやすくなります。その結果として発症するのが「誤嚥性肺炎」です。胃食道逆流が原因で起こることもあります。食事中のみならず、寝ている間に誤嚥することで誤嚥性肺炎を発症することも多く、高齢者では命にかかわることも多いため注意が必要です。

嚥下造影検査 (VF) とは

摂食嚥下障害患者に対し、透視室でX線を照射しながら行う飲み込みの検査が嚥下造影検査(VF)です。造影剤(バリウム)を混ぜた飲み物や食べ物を実際に食べていただき、どのように口から胃へ運ばれていくか、一連の流れを録画しながら確認します。

現在における摂食嚥下障害の診断方法のゴールドスタンダードとして、鼻咽腔ファイバーを使用して行う内視鏡下嚥下機能検査 (Videoendoscopy:VE) と共に、ひろく実施されています。

嚥下造影検査 (VF) で確認すること

- ・ 摂食嚥下のどの過程が障害されているのか
- ・ 口腔内で食物が適切に処理(咀嚼)できているか
- ・ 咽頭残留の有無
- ・ 誤嚥の有無
- ・ 誤嚥時のムセの有無
- ・ 食道内の残留や逆流の有無
- ・ 安全に食べることのできる食形態の検討
(常食・ソフトケア食・ペースト・ゼリー・トロミの濃度など)
- ・ 適切な食事環境の検討(リクライニング角度などの姿勢調整・一口量・介助方法など)
- ・ 適切な摂食嚥下リハビリテーションの検討



歯科医師、言語聴覚士、歯科衛生士、管理栄養士、放射線技師、看護師など多職種職員が集まり、嚥下造影検査(VF)を行います。

回復期リハビリテーション

2021年度 回復期リハビリテーション病棟実績

南3病棟(回復期リハビリテーション入院料2)

回復期リハビリテーション病棟の退棟患者 状態区分別内訳(2021年4月～2022年3月)

脳血管疾患、脊髄損傷、頭部外傷、くも膜下出血のシャント手術後、脳腫瘍、脳炎、脊髄炎、多発性神経炎、多発性硬化症、腕神経叢損傷等の発症、義肢装着訓練を要する状態	77人
大腿骨、骨盤、脊椎、股関節又は膝関節の骨折の発症、二肢以上の多発骨折の発症後又は手術後の状態	104人
外科手術又は肺炎等の治療時の安静により生じた廃用症候群を有しており、手術後又は発症後の状態	26人
大腿骨、骨盤、脊椎、股関節又は膝関節の神経、筋又は靭帯損傷後の状態	2人
股関節又は膝関節の置換術後の状態	7人



(南3病棟リハスタッフ)

評価項目	年間平均
在宅復帰率	82.0%
新規入院患者における重症度割合	55.3%
回復期対象者割合	88.7%
回復期対象患者の年齢	81.2歳

南4病棟(回復期リハビリテーション入院料2)

回復期リハビリテーション病棟の退棟患者 状態区分別内訳(2021年4月～2022年3月)

脳血管疾患、脊髄損傷、頭部外傷、くも膜下出血のシャント手術後、脳腫瘍、脳炎、脊髄炎、多発性神経炎、多発性硬化症、腕神経叢損傷等の発症、義肢装着訓練を要する状態	46人
大腿骨、骨盤、脊椎、股関節又は膝関節の骨折の発症、二肢以上の多発骨折の発症後又は手術後の状態	80人
外科手術又は肺炎等の治療時の安静により生じた廃用症候群を有しており、手術後又は発症後の状態	15人
大腿骨、骨盤、脊椎、股関節又は膝関節の神経、筋又は靭帯損傷後の状態	2人
股関節又は膝関節の置換術後の状態	5人



(南4病棟リハスタッフ)

評価項目	年間平均
在宅復帰率	72.3%
新規入院患者における重症度割合	48.3%
回復期対象者割合	87.2%
回復期対象患者の年齢	80.5歳

実績指数(アウトカム評価)

南3・4合算	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
単月	31.85	23.60	26.90	32.07	26.48	37.86	39.69	34.15	36.30	30.60	33.61	37.41
3カ月平均	30.05	28.97	28.36	27.79	28.31	32.46	35.29	37.28	36.80	33.55	33.38	34.00
6カ月平均	30.14	29.31	28.87	28.96	28.66	30.12	31.39	32.65	34.70	34.42	35.32	35.30

リハビリテーション機器の紹介

簡易自動車運転シミュレーター (SiDS:シーディス)



退院支援の一環として、2022年5月より自動車運転シミュレーターを導入しました。このシステムは認知反応検査、タイミング検査、走行検査、注意配分検査などで構成されており、自動車運転再開の支援ツールとして利用しています。また、訓練用のシミュレーターとしても使用することができ、在宅復帰支援に向けた質の高いリハビリテーションプログラムを提供いたします。

ポケットエコーmiruco



小型の超音波画像診断装置。関節や筋肉の状態をその場で確認でき、客観的にリハの治療効果を見ることができます。

デジタルバランストレーナー



転倒予防に効果的なバランス機能の訓練や評価に特化したリハビリ機器。1人でも実施可能な「連続訓練メニュー」も搭載しています。

統計・実績

2021年度 入院患者／入所者総数

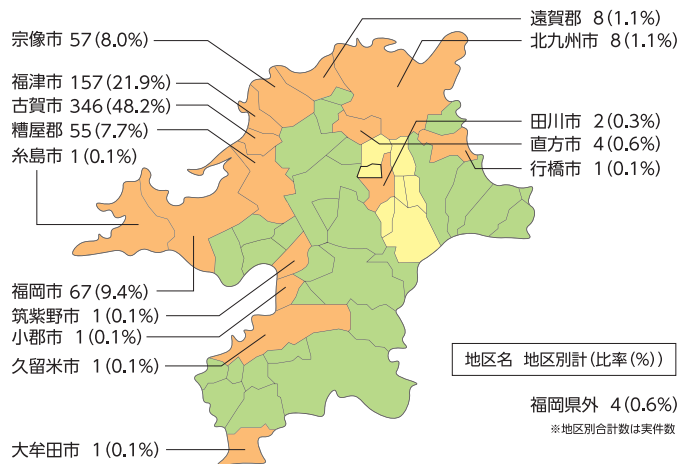
2021年度 入院患者紹介元一覧(病院)

紹介元	住所	病院(件数)	比率
福岡東医療センター	古賀市千鳥	425	50.1%
福岡和白病院	福岡市東区	78	9.2%
宗像水光会総合病院	福津市日蔭野	47	5.6%
古賀中央病院	古賀市天神	14	1.7%
宗像医師会病院	宗像市田熊	6	0.7%
九州大学病院	福岡市東区	5	0.6%
香椎丘リハビリテーション病院	福岡市東区	4	0.5%
遠賀中間医師会おんが病院	遠賀郡遠賀町	3	0.4%
加野病院	糟屋郡新宮町	3	0.4%
北九州八幡東病院	北九州市八幡東区	3	0.4%
上妻整形外科医院	福津市中央	3	0.4%
福岡輝栄会病院	福岡市東区	3	0.4%
福岡青洲会病院	糟屋郡粕屋町	3	0.4%
木村病院	福岡市博多区	2	0.2%
雁の巣病院	福岡市東区	2	0.2%
産業医科大学病院	北九州市八幡西区	2	0.2%
蜂須賀病院	宗像市野坂	2	0.2%
浜の町病院	福岡市中央区	2	0.2%
原外科医院	糟屋郡新宮町	2	0.2%
原三信病院	福岡市博多区	2	0.2%
福岡県済生会福岡総合病院	福岡市中央区	2	0.2%
福岡聖恵病院	古賀市鹿部	2	0.2%
福岡みらい病院	福岡市東区	2	0.2%
福西会病院	福岡市早良区	2	0.2%
その他病院		28	3.3%
施設		66	7.8%
在宅		135	15.9%
合計		848	100.0%

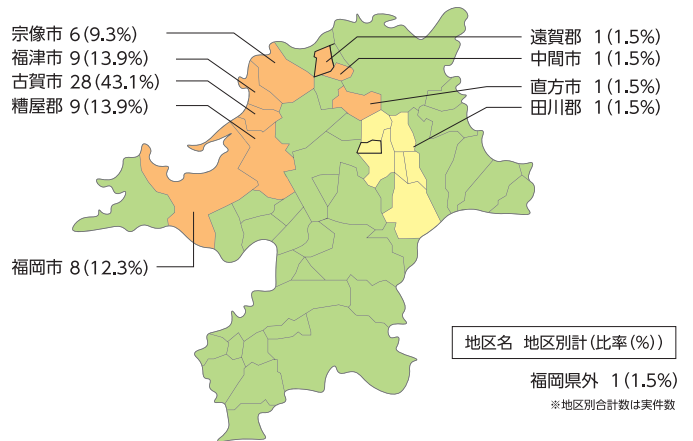
2021年度 入所者紹介元一覧(介護医療院)

紹介元	住所	病院(件数)	比率
北九州古賀病院	古賀市千鳥	60	90.9%
福岡東医療センター	古賀市千鳥	3	4.6%
宗像水光会総合病院	福津市日蔭野	2	3.0%
福岡和白病院	福岡市東区	1	1.5%
合計		66	100.0%

2021年度 地区別入院患者数



2021年度 地区別入所患者数



入院患者病棟ごとの疾病統計

障害者施設等一般病棟(南1・南2)

入院時病名	件数
パーキンソン病	35
慢性心不全	10
アルツハイマー型認知症	8
大腿骨頸部骨折	6
誤嚥性肺炎	5
脳梗塞後遺症	5
ガングリオシドーシス	4
急性硬膜下血腫	4
多系統萎縮症	4
胆管癌	4
尿路感染症	4
筋萎縮性側索硬化症	3
頸髄損傷	3
脳梗塞	3
慢性腎不全	3
胸椎圧迫骨折	3
心原性脳塞栓症	3
大腿骨骨折	3
多巣性運動ニューロパチー	3
うつ血性心不全	2
重症筋無力症	2
前立腺肥大症	2
その他	96
合計	215

回復期リハビリテーション病棟(南3・南4)

入院時病名	件数
脳梗塞	36
廃用症候群	28
大腿骨転子部骨折	25
腰椎圧迫骨折	19
大腿骨頸部骨折	15
右大腿骨頸部骨折	14
大腿骨転子部骨折	12
パーキンソン病	11
胸椎圧迫骨折	10
外傷性硬膜下血腫	9
腰部脊柱管狭窄症	9
誤嚥性肺炎	8
腰椎椎体骨折	8
脳梗塞(塞栓性)	7
変形性膝関節症	7
被殻出血	7
仙骨骨折	6
胸椎椎体骨折	5
視床出血	5
恥骨骨折	5
慢性硬膜下血腫	5
頸髄損傷	4
脳出血	4
脛骨高原骨折	3

外傷性くも膜下出血	3
高血圧性脳内出血	3
脳梗塞(血栓性)	3
脳皮質下出血	3
その他	116
合計	390

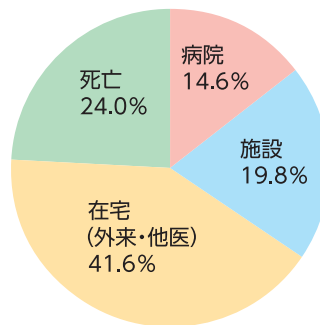
精神科一般病棟(中央2)、認知症治療病棟(中央3)

入院時病名	件数
アルツハイマー型認知症	32
うつ病	3
脳梗塞後遺症	3
パーキンソン病	3
血管性認知症	3
アルコール依存症	2
統合失調症	2
脳出血後遺症	2
レビー小体型認知症	2
高次脳機能障害	1
前交通動脈瘤破裂によるくも膜下出血	1
前頭側頭葉型認知症	1
双極性感情障害	1
正常圧水頭症	1
慢性硬膜下血腫	1
合計	58

2021年度 退院先一覧

退院施設	住所	件数	比率
福岡東医療センター	古賀市千鳥	83	9.7%
福岡和白病院	福岡市東区	15	1.8%
古賀中央病院	古賀市天神	6	0.7%
宗像水光会総合病院	福津市日時野	3	0.4%
加野病院	糟屋郡新宮町	3	0.4%
福岡輝栄会病院	福岡市東区	2	0.2%
福岡県済生会福岡総合病院	福岡市中央区	2	0.2%
北九州八幡東病院	北九州市八幡東区	1	0.1%
九州医療センター	福岡市中央区	1	0.1%
九州大学病院	福岡市東区	1	0.1%
産業医科大学病院	北九州市八幡西区	1	0.1%
千鳥橋病院	福岡市博多区	1	0.1%
原土井病院	福岡市東区	1	0.1%
疋田病院	福岡市東区	1	0.1%
福岡青洲会病院	糟屋郡粕屋町	1	0.1%
福岡大学病院	福岡市城南区	1	0.1%
福岡みらい病院	福岡市東区	1	0.1%
その他病院		2	0.2%
病院計		126	14.6%
北九州古賀病院 介護医療院	古賀市千鳥	60	7.0%
敬愛会 みどり苑	古賀市新原	11	1.3%
敬愛会 グリーンホーム	古賀市新原	1	0.1%
その他施設		98	11.4%
施設計		170	19.8%
在宅(外来・他医)		357	41.6%
死亡		206	24.0%
合計		859	100.0%

転帰別円グラフ



有資格者／実習受け入れ先一覧

看護師	認知症ケア専門士 3名 特定行為区分 【呼吸器(長期呼吸療法に係るもの)関連、栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連】 1名 実習指導者 9名 3学会呼吸療法認定士 7名
介護職	認知症介護実践リーダー研修 16名
リハビリ	3学会呼吸療法認定士 11名 認知症介護指導者 1名
薬局	日本静脈経腸栄養学会栄養サポートチーム専門療法士 1名 日本糖尿病療法指導士 2名 漢方薬・生薬認定薬剤師 1名 福岡糖尿病療法指導士 1名
実習受け入れ先一覧	福岡女学院看護大学 福岡看護専修高等学校 日本赤十字九州国際看護大学 宗像看護専門学校 九州栄養福祉大学 福岡リハビリテーション専門学校 麻生リハビリテーション大学 福岡国際医療福祉大学

医療療養病棟(東3・東4・中央4)

入院時病名	件数
誤嚥性肺炎	16
脳出血後遺症	13
アルツハイマー型認知症	12
脳梗塞後遺症	9
慢性心不全	7
パーキンソン病	7
慢性閉塞性肺疾患	7
褥瘡	6
被殺出血	5
慢性心不全	4
廃用症候群	4
2型糖尿病	3
前立腺癌	3
視床出血	2
肺癌	2
レビー小体型認知症	2
大腿骨頸部骨折	2
低カリウム血症	2
慢性呼吸不全	2
仙骨部褥瘡	2
その他	75
合計	185

介護医療院(東1・東2)

入所時病名	件数
アルツハイマー型認知症	24
脳梗塞後遺症	7
慢性心不全	3
誤嚥性肺炎	2
認知症	2
脳梗塞(塞栓性)	2
脳出血後遺症	2
廃用症候群	2
その他	22
合計	66

各病棟月別VF検査実施数

病棟	月												合計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
障害者施設等一般病棟(南1、南2)			1	3		1	2	2	1	1		2	13
回復期リハビリテーション病棟(南3、南4)	3		2	1	3		2		2	2			15
医療療養病棟(東3、東4、中央4)	1	1	1	1	2	2	1		2	3	1	2	17
精神科一般病棟(中央2)、認知症治療病棟(中央3)		1	1		1		1				1	3	8
介護医療院(東1、東2)	1					1						1	3
合計	5	2	5	5	6	4	6	2	5	6	2	8	56

研修

2021年度院内研修一覧(全体・看護部・リハビリ科)

4月	ハラスメント(本部) 医療安全 ターミナルケア(看護主任) 新人研修(看護主任) 症例検討会
5月	人工呼吸器の使用(IMI) 身体拘束の意義と対策(看護主任) 精神科:レクリエーション(OT)
6月	個人情報保護(事務) 針刺し事故防止(JMS) 介護職における事故防止対策(看護主任) 伝達講習会(OT)-第58回日本リハビリテーション医学会学術集会
7月	医療安全(エーザイ) 認知症(看護師長) 安全な移乗動作介助方法(リハビリ) 伝達講習会(PT)-第18回日本訪問リハビリテーション協会学術大会 伝達講習会(OT)-九州OT学会
8月	院内感染対策(看護師長) 摂食・嚥下・食事介助(看護師長) 症例検討会
9月	精神科:虐待防止 口腔ケアについて(歯科衛生士) 救急蘇生法(各病棟主任による指導研修) 伝達講習(PT)-第22回日本認知症ケア学会 伝達講習(OT)-第7回日本臨床作業療法学会学術大会
10月	個人情報保護(事務) 感染対策・ノロウイルス対応(看護師長) 科内研修(PT)-目標設定と問題点の抽出(1)
11月	院内感染対策(看護師長) 経過記録(看護師長) 介護職にできる褥瘡予防(看護主任) 医療制度の概要及び病院の機能と組織の理解(各病棟師長) 科内研修(PT)-目標設定と問題点の抽出(2) 症例検討会
12月	接遇・障害者差別解消法(本部) ヒヤリハット(看護師長) 病院における介護職の役割(介護職主任) 虐待防止と身体拘束廃止(看護師長) 伝達講習(PT・OT)-第5回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会 症例検討会
1月	精神科:老年期うつ病と認知症の鑑別 虐待防止と身体拘束廃止(看護師長) 病院における接遇(事務) 伝達講習(PT) 第19回日本神経理学療法学会学術集会
2月	精神科:虐待防止(医師) 褥瘡予防(看護師長) 介護記録の書き方(看護主任) 整形外科レントゲン画像の診方と考え方(股関節) (PT)
3月	院内研究発表会 排泄ケア(看護主任 介護職リーダー) 令和4年度診療報酬改定(リハ副部長) 症例検討会



沿革

年月	病棟	変遷	歴代院長
昭和42年11月		北九州古賀病院開設(内科、呼吸器科 99床で開設)	(就任) 昭和42年10月 (辞任) 平成14年3月 坂井 邦裕 (34年6カ月)
昭和45年8月		精神科を追加	
昭和52年7月		増築(353床)	
昭和55年2月		病床変更(437床)	
昭和55年8月		病床変更(534床)	
昭和60年10月		呼吸器科の結核病棟を廃止	
平成5年7月		理学診療科を追加(内科、呼吸器科、理学診療科、精神科)	(就任) 平成14年4月 (辞任) 平成18年10月 古賀 明俊 (4年7カ月)
平成11年2月		病床変更(594床)	
平成12年4月		介護療養型施設許可	
平成17年2月		財団法人日本医療機能評価機構Ver4.0による病院機能評価認定	
平成19年7月		療養病棟60床を障害者施設病棟へ変更	
平成22年8月		障害者施設等入院基本料 10:1	
平成22年9月		回復期リハビリテーション病棟入院料2 認可	(就任) 平成18年11月 (辞任) 平成19年3月 横田 晃 (5カ月 理事長兼務)
平成23年1月		中央棟改修・南棟増築工事開始	
平成24年1月		中央棟改修・南棟増築工事完成	
平成25年10月		診療科に神経内科を追加	
平成26年3月	中4	医療療養病棟41床を障害者施設等一般病棟へ変更 医療療養病棟は合計120床、障害者施設等一般病棟は合計101床となる	
平成26年9月	東4	介護療養病棟60床を医療療養病棟60床へ変更 医療療養病棟は合計180床、介護療養病棟は合計180床となる	
平成28年2月		回復期リハビリテーション病棟入院料1 届出	武田 成彰 (8年2カ月)
平成28年10月	中4 南2	障害者施設等一般病棟41床を医療療養病棟へ変更 医療療養病棟60床を障害者施設等一般病棟へ変更 医療療養病棟は合計161床、障害者施設等一般病棟は合計120床となる	
平成29年12月	南3 南4	医療療養病棟60床を回復期リハビリテーション病棟へ変更 回復期リハビリテーション病棟40床を医療療養病棟へ変更 医療療養病棟は合計141床、回復期リハビリテーション病棟は60床となる	
令和元年6月	南4 東3 中4	医療療養病棟40床を回復期リハビリテーション病棟へ変更 介護療養病棟60床を医療療養病棟へ変更 医療療養病棟41床を介護療養病棟へ変更 医療療養病棟は合計120床、介護療養病棟は合計161床、 回復期リハビリテーション病棟は合計100床となる	(就任) 平成27年6月 (辞任) 令和2年5月 中村 純 (5年)
令和元年9月	東1・東2	介護療養病棟120床を介護医療院へ変更 北九州古賀病院は474床、介護医療院120床となる	
令和3年4月	中4	介護療養病棟41床を医療療養病棟へ変更 医療療養病棟は合計161床となる	
			橋爪 誠 (現院長)

認知症治療病棟の中にある生活機能回復訓練室「ひだまり」では、約10名ほどの患者さんを対象に、看護職、介護職、作業療法士が連携を図りながら、食事や体操・貼り絵などを行っています。昨年までは、訓練室の名称はなかったのですが、温かい雰囲気、呼びやすい「ひだまり」としました。季節感のある生け花や作品作りを続けることが、患者さんの表情や動きなどにより変化もたらしているように感じます。

今できる生活能力の維持・向上を目標に、今後も活動を続けていきます。「ひだまり」は、退院に向けての第一歩です。患者さん、職員にとってのひだまりになりつつあります。
(文責 柳本 阿由美)



編集後記

新型コロナウイルスの変異株(オミクロン株)が支配的な状況を継続している災禍の中、感染対策を万全に一層のご発展のことと思います。今回は、「嚥下造影検査」、「回復期リハビリテーション」、「認知症病棟の生活機能回復訓練」の取り組みについて紹介をさせていただきました。少しでも

興味を持っていただけたら幸いです。機関誌「煌」第2号発行にあたり、ご協力いただいた先生方には心より感謝申し上げます。不安定な社会情勢が続く中、共に仲間と力を合わせ前へ進んで行きましょう。夜空に煌めく北辰(北極星)を目指して…

(文責 渡邊 義弘)